

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ①

『私はないものを数えない』

夏休み、市内の小中学校の校長先生・教頭先生と面談をしました。24人の皆さんに、夏休みに1冊本を読んで下さいという宿題を出しました。いつも職場の先生や学校の子どもたちに宿題を出している人に逆に宿題を出すというのは失礼とは思いましたが、先生方（特に管理職）こそ本に親しんでほしいと思ったからです。私も8月の中旬に行われる教育講演会の講師の方の書籍「私はないものを数えない」をまず読んでみました。事故で両足を失い、車椅子ユーザーとなった葦原海氏の本。海さんはミラノコレクションやパリコレクションで車椅子モデルとして活躍、東京パラリンピックの開会式パフォーマーも務めました。とにかく明るく、ポジティブなエッセイです。作品はSNSのブログを読んでいるようにさっと読めます。人は誰も違った境遇で生きています。少しだけ不都合があるかもしれませんが、お互いの境遇を理解し合いたいと思いました。

今年の7月は晴天に恵まれる朝が多く、夏の巡回ラジオ体操が行われています。私もウィークデーは天王川公園で、土曜日は神守小の体操会に参加しました。沢山の方が参加してみえます。200人をこえる日もあり、ラジオ体操が私たちの生活に根づいていることを実感します。体が覚えているのか、放送が始まると自然と身体が動きます。汗をかいて一日が始まるのは気持ちがよいです。今年は行進しながら、ラジオ体操の歌も歌っています。そういえば昨年の11月中国の杭州や上海で同じ光景を見ました。朝、街中を散歩していると公園で太極拳をしている人たちと出会いました。音楽に合わせて様々なポーズをとっていました。健康に気をつけ、朝から身体を動かしているのは同じだと思いました。皆さんは夏休み、健康に気をつけていることを何かしていますか。

今年も尾張津島天王祭の朝祭に参加しました。供奉人として津島神社の神輿の御供をさせていただきました。天王川公園の堤から北側の坂を降り、津島神社の参詣道を歩きます。私は袴袴姿の武士ですが、神官、貴族の衣冠束帯や町人・家人の姿、さながら時代絵巻の格好で歩きます。一番暑い時間帯に奏楽が流れる中、ゆっくり歩きました。それぞれの車（米・堤下・今市場・筏場・下、市江）の年寄、祝司や稚児と一緒に津島神社へ向かいました。内陣で子どもたちの奏楽の演奏を聞きました。小さな稚児たちが暑さを我慢して立派に祭りの主役を務めていました。激しい蟬時雨と重なりました。

夏風や車楽舟に飾り替え

令和8年8月1日

津島市教育委員会

教育長 浅井厚視

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ⑭

『博物館の二つの企画展』

以前にも書きましたが、私は清須市にある「あいち朝日遺跡ミュージアム」に定期的に通っています。企画展が替わるたびに見学に行きます。前回は「愛知の発掘調査 2025」を見てきました。尾張部（名古屋市）の弥生時代の住居（掘立柱建物）や墓（方形周溝墓）の様子、そこから出土した円窓付土器をはじめとした土器、三河部の前方後円墳とその石室の調査を知りました。今回の企画展は「一宮市萩原遺跡群」が6月21日まで展示されています。その中には、愛知県の発掘調査区で見つかった朝日銅鐸（清須市）と八王子銅鐸（一宮市）を見ることができ、銅鐸の音色と合わせて、弥生時代のワンターランドに入ります。出土状況がはっきり分かる珍しい銅鐸です。銅鐸が見つかった状況（逆さであったり、寝かせてあったり）の解説もありました。八王子銅鐸が見つかった日、私はその発掘現場、すぐ近くでトランシット（測量器）を立てていました。また銅鐸の取り上げをした時にはビデオカメラ係を務めました。東海地方の特色となっている紅殻を使った赤色の美しい土器（パレス土器）も一度見てほしいと思います。

もう一つは名古屋市の徳川美術館で行われている「豊臣兄弟！」の企画展です。今年のNHK大河ドラマに係る特別展で大変人気を集めています。信長・秀吉・家康の三英傑に加え、史上最高の補佐役（ナンバー2）豊臣秀長について展示が行われています。津島神社の楼門は秀吉が、南門は秀頼が寄進し、秀吉は尾張津島天王祭をこよなく愛し、大坂に移そうとしていたと言われています。そんな津島と深い関わりのある人たちの企画展です。三人の肖像画や書状、秀長愛用の茶入や兜を見てほしいと思います。調整型で人の話をよく聞いたと言われる秀長の人となりに関心をもって下さい。津島は信長・秀吉の家臣として活躍した津島衆がおり、賤ヶ岳の七本槍の加藤清正や平野長泰のように津島にエピソードを残す武将もいます。常設展では、徳川美術館には多くの合戦図屏風や刀、兜、鉄砲もあり、戦国時代の戦いの雰囲気味わうこともできます。自分の人生の中で徳川美術館の講堂で「郷土愛はふるさと検定から」という講演をしたことが大きな自慢となっています。美術館の講師専用入口から入れて頂きました。

この二つの企画展、博物館を5月・6月に訪ねていただきたいと思います。さらに全国にあるお城や城館を訪ね、兵どもの戦さのあとに関心をもっていただきたいと思います。私も御朱印に合わせ御城印も始めたところです。

令和8年5月1日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視